

●植物観察会

主催 野川公園緑の愛護ボランティアの会
 日時 9月5日(日) 13:00~14:30
 10月3日(日) 13:00~14:30
 集合 野川公園自然観察センター前
 申込 直接会場へ 参加費 無料
 問合せ 0422-31-9033

●展示会“景観と歴史創り”

～市民とともに考える新しいまちづくりのヒントの提案～

主催 三鷹市建築家の会
 日時 9月17日(金)～20日(月)
 10:00~19:00 最終日は16:00まで
 場所 三鷹市市民芸術文化センターB1F
 申込 不要 直接会場へ
 問合せ 電話 0422-46-3063

●第63回井の頭かんさつ会

主催 井の頭かんさつ会
 テーマ「秋の夏鳥探鳥会」(予定)
 日時 9月20日(月・祝) 9:00~11:00
 事前に申込みが必要

編集後記

今年の夏は、大変暑かった。世界的にみても、異常気象で、ロシアをはじめ、各国での穀物の生産が悪く、供給量への影響が心配される。身近でも、ゲリラ豪雨で、すぐに浸水の被害がでる。今年は、ホテルの数が、少なかったとの話も聞く。それでも、実りの秋になって、心休まる日もあることを願っています。(安達)

参加費 300円
 申込み 大原 kapock@parkcity.ne.jp
 HP URL <http://www.kansatsukai.net>

●折り紙のように作るシャツ型
 コースター作り

主催 ごみ対策課
 日時 9月22日(水) 13:00~15:00
 場所 三鷹市リサイクル市民工房
 対象 特になし
 定員 8名(多数の場合は抽選) 無料
 申込 往復はがきで9月15日(水)
 必着でごみ対策課へ
 問合せ ごみ対策課 内線 2534

●花と緑のフェスティバル

主催 三鷹市
 メイン 日時 9月25日(土)
 10:30~16:30
 場所 三鷹市暫定管理地
 プレ 日時 9月20日(月・祝)
 11:00~15:00
 場所 花と緑の広場
 参加 誰でも参加できます。
 詳細 9月5日の広報みたかに掲載
 問合せ 花と緑のまち三鷹創造協会
 電話 0422-45-8351

発行：みたか環境活動推進会議
 (愛称 みんなの環境)
 連絡先：三鷹市環境対策課
 電話 0422-45-1151 内線 2523・2524
 E-mail: kankyo@city.mitaka.tokyo.jp
 本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。

燃やせるごみ、燃やせないごみ・・有料化その後

三鷹市では、事業系ごみは平成12年9月から有料とし、平成21年4月に登録制になりました。登録事業所は、平成22年3月31日時点で、2,691事業所になり、ごみ袋には登録番号を記入して出します。

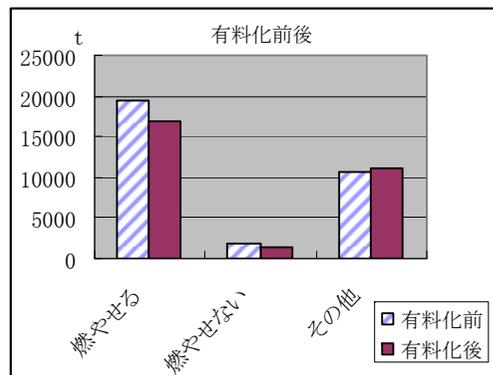
平成21年10月、家庭系ごみは、有料化され、指定されたごみ袋を使います。有料化前の平成20年10月から翌年6月の9ヶ月の燃やせるごみは19,468トン、燃やせないごみは1,692トン、その他(粗大ごみ、有害ごみ、資源ごみ)は、10,746トンありましたが、有料化実施後の平成21年10月から翌年6月までの9ヶ月間は、燃やせるごみは16,920トン、燃やせないごみは1,338トン、その他(粗大ごみ、有害ごみ、資源ごみ)は11,200トンになりま

した。燃やせるごみと燃やせないごみは、減少し、資源ごみが増えました。これは市民のごみを分別する意識の高まりであり、有料化のもたらす効果といえます。

有料化直後にはごみは減少し、その後のリバウンドが心配されましたが、今のところ、その心配もないようです。

では、市内から収集されたごみはどのように処理されているのでしょうか？燃やせるごみは、焼却場で燃やし、その灰は平成18年度からエコセメントになり、燃やせないごみは独自にサーマルリサイクルされ、処分場への埋め立てはゼロになりました。燃やせないごみは、プラスチック、鉄、アルミ、びん、その他に分けられ、それぞれ専門の業者に依頼しリサイクルされます。プラスチックは、事業者で作っている容器包装リサイクル協会が、引き取っていきます。

生活をする上で、ごみは出さざるを得ません。しかし、買い物にはマイバッグを使用し、過剰包装のものは買わない、又は断る、余計なものは買わない、食品等も必要な分だけにし、食べ残しは作らない等の留意をし、ごみ減量に努めたいものです。(データは三鷹市ごみ対策課より) (森)



三鷹発、ビームダウン式太陽熱集光実証実験装置

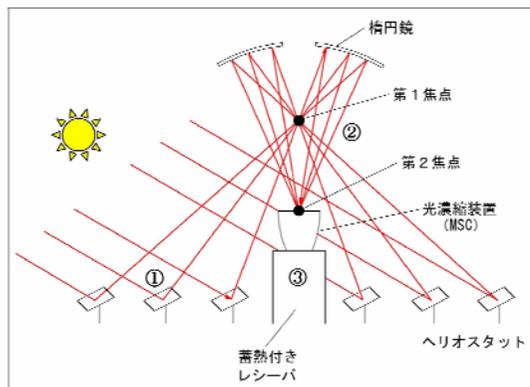
三鷹光器株式会社

精密光学機器メーカーの三鷹光器(株)は、1966年5月の創業以来宇宙開発事業に携わり培い続けた技術力を基に、高精度天体望遠鏡、光学測定装置、医療機器等の設計・製造をしております。

2008年より太陽熱集光装置の開発に取り組み、2010年6月に三鷹市新川の土地に「三鷹発、ビームダウン式太陽熱集光実証実験装置」を立ち上げました。

この事業の目的は、地球にやさしいエネルギー供給源(石油に代わるエネルギー)と成りえる装置の性能評価です(特にヘリオスタット(1次ミラー)と楕円鏡(2次ミラー))。本装置は、太陽を追尾する4枚のミラーをもつ赤道儀式ヘリオスタット(反射鏡)70台と、高さ10mの位置に設置した楕円鏡、光濃縮装置(MSC)の3つの要素で構成されております。原理は、①まず太陽光をヘリオスタットによって楕円鏡の第1焦点に集光させます。②次にその光は楕円鏡表面で反射し、第2焦点で再度集光します。③最後に第2焦点を通過した光はMSC内で濃縮され、MSC出口では高温の熱エネルギーを得る事ができます。

本装置の主な特徴は、レシーバを地上に設置する事により建設費用、メンテナンス費用等、を低く抑える事ができ、他の太陽熱集光装置と比べ、発電費用、淡



太陽熱集光装置原理図

水化費用、温水費用等、低減できる可能性が大きい事です。

現在本装置の実力値を、様々な実験を通して検証をしております。この結果を基に装置の実用化・商用化(発電施設、海水淡水化施設、水素製造施設、季節外農業施設、温水利用施設等)に向けた開発を計画しております。将来的に直面する深刻なエネルギー問題の解決策のひとつとして三鷹から世界に提案・貢献できればと考えております。

また弊社は本装置を環境学習フィールドとして提供しております。太陽エネルギーを最大限に活用した本装置が、CO2を一切排出しないクリーンな次世代エネルギーについて考える機会になることを社員一同願っております。

市役所の窓：わたしと次世代を担う子どもたち

新川保育園では簡易版EMS導入を機に保育園でできることは?と考えました。そして昨年より年長クラスに自然環境についての話しを年に数回行っています。先日は水について、話しをしました。

ペットボトルに炭、砂を入れて簡易のろ過装置を作り、子どもたちの前で泥水から透明な水になる様子を見せました。変化した透明な水を見て「白くなった!」と表現する子どもや、「この水は飲めるの?」といった質問、驚きの声もたくさんありました。また「水を出し過ぎないように」と言うよりも「人差し指くらいに水を出すといいね」といった視覚的な知らせ方のほうが、子どもたちには理解しやすく、食事の手洗いでは指と水道水の太さを確認する子どもの姿が見られました。環境活動は日々の積み重ねや持続することが大切だと考え、新たな環境活動をイベントではなく、日々の保育にちよっと加えるというスタンスで行なっています。

最近、年長児が年下の子に大人から聞いた環境の話しを教える姿があり嬉しく思いました。子どもがそうやって話すということは話しが面白かったり、興味を持ってくれたからですし、大人がたくさん子どもたちに話すより、子ども一人ひとりが話しを広げていくことのほうが広がり方が格段に違うと考えているからです。このように保育園が発信した身近な環境のことを年長児がまわりの子どもに、子どもたちが家庭に、そして地域にと、池にボトンと小さい小石を落としてできた小さな水の輪が、だんだん大きな水の輪になるように広がることを期待しています。そうしてできた広がりとともに、子どもが大人になったときに環境問題に意識をもって社会で活躍することで、次世代の社会が今よりも持続可能な社会になることを、今よりも安心して生活できる環境になることを願っています。

新川保育園 川合理絵

花と緑のフェスティバル

三鷹市市制施行60周年記念事業 花と緑のフェスティバルが開催されます。
日時：9月25日(土) 午前10時30分~午後4時30分
場所：東八道路沿い三鷹市暫定管理地内大屋根広場
内容：都市の緑を守るフォーラム、交流コーナー、販売コーナー、展示コーナーなど
主催：三鷹市
参加：誰でも参加できます。無料です。
プレイベントも、花と緑の広場にて、9月20日(月・祝)に開催されます。
問合せ：花と緑のまち三鷹創造協会 0422-45-8351
詳しくは 9月5日の広報みたかをご覧ください。